

# かたりべ 91

豊島区立郷土資料館だより



フランス・ビルモラン社の野菜ポスター  
榎本泰吉氏所蔵



カネト商報 (1933年)  
榎本泰吉氏寄贈



野菜種子の絵袋 進藤進氏所蔵

2008年度企画展

いちいゆうにゆうこん  
**一粒入魂!**

～日本の農業をささえた種子屋～



2008年10月16日(木)～12月14日(日)

**入館無料**

なかせんどう  
**中山道はかつて「種子屋通り」だった!!**

明治期から昭和一〇年代まで、豊島区東鴨から北区滝野川にかけての中山道は、通称「種子屋通り」と呼ばれ、野菜の種子屋のメッカでした。大正中期には二〇店以上の種子問屋が軒を連ね、全国各地の農産種子の一大集散地を形成していました。

その一軒、幕末から東鴨庚申塚で種子問屋を営む榎本留吉商店（現東京種苗株）より、一九九二年歳の解体にともない、膨大な資料の寄贈を受けました。当館では、郷土資料館友の会古文書サークル会員五名（通称エノモン会）の協力を得て、資料整理を進めてきました。

今回の企画展では、その成果を紹介するとともに、明治期から昭和戦前期にかけて日本の農業をささえてきた種子屋のあゆみを通して、地域の埋もれた産業の歴史に光をあてます。

展示では、採種農家（種子を専門に採る農家）や商人、種子問屋の道具や文書類のほか、野菜や採種場（畑）の写真、趣向をこらした美しいカタログや絵袋、そして、もちろん野菜の種子も一堂に紹介しながら、現在の種苗業や農業について関心をもっていただく機会としたいと思います。

また会場には、親子で楽しめる体験コーナーを設けました。学芸員による「企画展見どころ解説」も行ないますので、皆さんお誘い合わせのうえ、ぜひご来館ください（六頁もあわせてご覧ください）。（横山）

◆開館時間：午前九時～午後四時三〇分

◆休館日：月曜日、第三日曜日、一月三日・四日・二三日

# 資料の引越

## —やさしい環境へ大移動—

当館が一九八四年に開館して以来、多くの資料が区民の方から寄贈され、展示室で公開、あるいは小学生の授業で利用、さらに、他の博物館の展示会に貸し出しをしてきました。これらの資料は、区内各所の収蔵庫に保管していますが、その一ヶ所が、雑司が谷旧宣教師館の事務棟の一階です。同所は、一九八六年八月か



1 事務棟一階。棚と壁の数字は引越しのためにつけた作業番号。各資料にはそれぞれ資料番号の札がついている。

ら使用していましたが、空調設備はなく、近年の異常気象のため、資料にとって居心地のよい環境ではなくなりました。そこで、本年五月から六月にかけて、旧第十中学校（千早四丁目）収蔵庫に移動しました。その引越し過程を報告します。



2 雑司が谷の収蔵庫からすべての資料を千早へ二トン車で搬出する。資料の大きさ重さはさまざま。



3 資料は、移動中の破損に気をつける。はずれやすい部分はラップで固定。風の力を利用し、米・麦・種子等を精選する唐箕という農具。大きいのが、比較的軽い。作りは細やかである。



4 臼は重たい。動かすのに一苦労。ある臼は、90kgだった。呼吸を合わせて「イッチ、二のサン」



5 旧第十中学校の一階。三教室の前の廊下に運んできた全資料が並ぶ。資料は、木製、金属製、ガラス製、石製、紙製等多様。百年前の農具もある。



6 資料にうつすらついているカビ。これは大変。早速、水で洗い流す。元の所有者の購入年が墨で書かれてある。



7 稲藁<sup>いなわら</sup>かイグサで作られたと思われる容よう器きの細部を歯ブラシできれいに。



8 五つ玉の算盤<sup>そろばん</sup>。柔らかかなはたきでほこりを落とす。



9 洗った資料を干す。作業する人の腰に下がっているものは、電池で動く蚊取り線香。資料整理は蚊との戦いでもあった。旧第十中学校の庭にて。



10 資料を保管していた合成樹脂製の容器は、薄めた洗剤でよごれを流した。



11 もとの収蔵庫で使っていた資料棚を解体し、ホコリとサビをきれいに落とす。これから新収蔵室で組み立てだ。「もうひと働きしてね」



12 新しい収蔵室は、元音楽室。天井の高さを気にしながらの作業。



13 資料は一階から四階まで運び上げた。差し込む西日を遮断するための工夫はこれから。課題は多い。

地域の歴史を伝える資料は、良好な状態で次の世代に継承されなければなりません。今回の引越しを機会に、資料一点一点に触れることで、寄贈された方たちの資料に対する思いが伝わってきました。資料の収蔵環境としてまだ不備な点がありますので、今後も多くの人の力をお借りし、充実させていきたいと思ひます。

今、当館では、この大きな課題を前に、武者震い<sup>むしゃやぶる</sup>？しています。  
(福岡)

# 東京へ帰る記念に、善光寺へ遠足

## 疎開学童たちの笑顔

長野県しんぎょ渋温泉の金具屋旅館のホームベ  
ージに、豊島区高田第四国民学校の学童  
集団疎開についての記事が掲載されてい  
ました。この記事のことは、高田第四校  
から渋温泉に疎開された体験者の高橋登  
女恵さんにご連絡いただいて初めて知っ  
たのですが、そのなかに疎開学童が帰京  
記念に長野市の善光寺まで遠足に行った

時の写真（左上）がありました。郷土資  
料館では、学童疎開関係の資料や写真の  
収集を多年こころがけていましたが、こ  
の写真は初めて見るものでした。

### 一つの村に十四校

学童集団疎開とはアジア太平洋戦争末  
期、大都市への空襲から逃れるため、子  
どもたちを学校ごと地方へ移  
したものです。一九四四（昭和  
一九）年八月から始まります。

長野県平穏村（戦後、山ノ内町）  
の湯田中・渋・安代・上林と続  
く温泉地には、豊島区から高田  
第一・第五・池袋第六の各国民  
学校と足立区の八校が疎開して  
いました。高田第四校は、金具  
屋など七つの旅館に分れて生活  
をしました。

さて、金具屋ホームページに  
写真をお寄せになったのは、同  
旅館を学寮としていた猫島京子  
さん（旧姓・加藤さん、当時四  
年生）です。猫島さんは、写真

とともに次のような体験談を寄せられて  
います。

### 大広間が崩れ落ちる

一九四五（昭和二〇）年二月のある深  
夜、金具屋旅館の大広間が雪の重みのた  
め、崩れてしまいました。この年は、例  
年よりも寒さがきびしく、雪が多かつた  
といわれています。この大広間は二階建  
て一六七畳という大きなもので、疎開学  
童男子の寝室になっていましたが、全く  
の偶然でこの夜は使っておらず、けが人  
はなかったということです。しかし、猫  
島さんたちは、金具屋から別の旅館に移  
らざるをえませんでした。

その後、渋・安代・湯田中の温泉は負  
傷したり病気になるったりした兵士の療養  
施設となり、大部分の学校は、五月六月  
の間に山間部もふくめた他の村々の寺院  
などに移って行きます（再疎開）。高田第  
四は古里村など五つの村に再疎開しまし  
た。猫島さん・高橋さんは、ともに古里  
村（現・長野市、最寄の駅は三才）の浄  
専寺が再疎開先でした。

子どもたちは、ここで八月二五日の敗  
戦を迎えます。

### 善光寺で

長野  
県に疎  
開して  
いた子  
どもた  
ちが、  
敗戦の  
後、東  
京に帰  
る前に  
善光寺  
へ記念



円徳寺提供

の遠足にいったことは多くの学校で例が  
あり、写真もいくつか当館によせられて  
います。右下は、同じ高田第四校で、神  
郷村（現・長野市）の円徳寺に再疎開し  
た子どもたちの善光寺での写真です。  
ところで、この善光寺での写真では皆  
が心から笑っているように見えます。そ  
れは、やはり、もうすぐ東京へ帰れると  
いう思いがあったからでしょうか。

（あおき）

高田第四国民学校は空襲で全焼し、戦  
後廃校になります。その後、一九五〇年、  
校地跡に日出小学校が創立。その日出小  
は他の二校と統合して、二〇〇一年、南  
池袋小学校となりました。



# セピア色の記憶

## 第21回 「健全なスポーツの殿堂」のいま

左に示した二枚の写真は、ほぼ同じ地点から撮影した昭和四〇（一九六五）年頃と現在（二〇〇八年八月撮影）の池袋駅北側付近（東池袋一丁目・上池袋二丁目）の様子です。地図に示した\*印は撮影地点を、↓印は撮影方向を示しています。

上写真の線路と架線は、山手線とほぼ並行して走っていた貨物線、その向こう側に見えるカマボコ型の建物は、昭和三五年に開業した池袋スケートセンターで

す。周りにはまだ高層の建物がなく、またデザイン的にもユニークで大きな建造物のため、開業当初は行き交う人々の目を引いたことでしょう。

さて、昭和三九年に豊島区と豊島区観光協会が発行した「としま」と題される全六枚組の絵葉書セットの一枚には、この池袋スケートセンターが取り上げられ、「池袋駅から五分の池袋スケートセンターは、四階建の近代的な建物で、一階は

七二M×三六Mのアイス・スケートリンク（夏はマンモスプール）、二階グリル、三階二二レーンのボーリングセンター、四階には、ローラースケートリンクがあり、健全なスポーツの殿堂として親しまれ、池袋の newName となっている。」と解説が加えられています。そして、多彩な施設のうち、表面には右下に示した池袋マンモスプールの写真（絵葉書の写真はカラー）と、アイススケートリンクの写真が使用されています。

若かりし頃、この「健全なスポーツの殿堂」をよく利用したという読者の方々が



マンモスプールの様子 写真奥に見える「HAWAIIAN」という看板の下では生演奏も行われていたようである。

も多いのではないのでしょうか？ ちなみに、筆者には、友達とスケートセンターに行ったもののスケート靴のサイズが合わず、マメができてエラく痛い思いをした中学校時代の記憶があります。

今やこの「池袋の new name」は、巨大煙

突がそびえる豊島清掃工場と区立健康プ

ラザとしまへと姿を変え、行き交う人々

の目を引き、また公共施設として利用さ

れています。ただし、これらの建物の手

前には、池袋駅の東西をつなぐ池袋大橋

が架けられ、そして池袋駅構内の線路の

敷設状況も大きく変わってしまったため、

この二枚の写真の関連性を知る手がかり

はほとんど残されていません。（秋山）



# 郷土資料館・秋のイベント情報

## 企画展 関連事業

### ① 企画展見どころ解説

◆ 十一月：一日(土)、二日(日)、  
二九日(土)、三〇日(日)

◆ 十二月：一三日(土)、一四日(日)

※各回とも午後一時三〇分～二時三〇分

※会場での幻の「種物音頭」を流します!

※事前申込み不要。当日直接展示室に、

お越し下さい。

### ② 体験コーナー

#### 「親子で挑戦！」

#### 野菜とタネのふしぎ・ふしぎ!

★これは何のタネでしょう?

(左の写真の答えは、下の「編集後記」  
をごらんください。)

★かぞえてみよう!

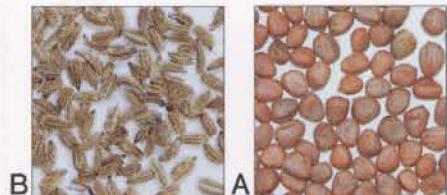
タネ何つぶあるか  
な?

★野菜博士になろう!

クイズ&漢字検定

(正解者にはプレゼ  
ント差し上げます)

★おりがみで野菜を  
つくろう!



## 地域史講座

### フィールドワーク「種子屋通り をあぐる」(全二回)

企画展「一粒入魂! 日本の農業をさ  
さえた種子屋」の関連事業として、明  
治期から昭和戦前期に、中山道沿いに多  
く集まっていた野菜の種子屋の足跡を訪  
ね歩きます。

#### ◆ 日程・内容

① 一〇月二三日(木) 企画展の見学とオ  
リエンテーション

② 一〇月三〇日(木) 現地見学会 (JR  
栗鴨駅→栗鴨庚申塚→榎本商店→滝野川  
の種苗会社→滝野川八幡神社→金剛寺→  
飛鳥山公園 (JR王子駅) 約五キロ

◆ 時間：二回とも午後二時～四時 ◆ 講師  
：当館学芸員横山恵美 ◆ 会場：①区立勤  
労福祉会館四階 研修室②現地集合・  
現地解散 ◆ 定員：二〇名 ◆ 参加費：保険  
料一〇〇円 ※テキストとして企画展図録  
二〇〇円を購入していただきます。

◆ 参加条件：二回とも参加できる方

◆ 申込方法：下記をご覧ください。

## 歴史講座

### 「LOH-I 江戸の鈍感力」(全五回) —江戸人の鈍感力—(全五回)

昨年度好評だった江戸シリーズの第二  
弾。今年も第一線で活躍している研究者  
を迎え、開催します。

#### ◆ 日程・内容・講師

① 十一月一日「江戸の災害とメディア」

富澤達三氏 (葛飾区郷土と天文の博物  
館専門調査員)

② 十一月八日「江戸の捨子事情」

中野達哉氏 (駒澤大学文学部教授)

③ 十一月十五日「江戸の玩具と浮世絵」

藤岡摩里子氏 (前昭和薬科大学非常勤講師)

④ 十一月二十二日「江戸・東京の牛乳事情」

齋藤悦正氏 (本郷高等学校講師)

⑤ 十一月二十九日「江戸の首都機能と大奥」

大石 学氏 (東京学芸大学教授)

◆ 時間：各回とも午後三時～四時三〇分

◆ 場所：区立勤労福祉会館六階大会議室

◆ 定員：一〇〇名

◆ 受講料：無料

◆ 受講条件：全回出席できる方

◆ 申込方法：下記をご覧ください。

※展示替えのため臨時休館いたします。

一〇月六日(月)～一〇月十五日(水)

## 地域史講座と歴史講座の申込方法

◆ 往復はがき(二人一通まで)に  
「①講座名、②住所、③氏名(ふりが  
な)、④年齢、⑤電話番号」をご記  
入のうえ、郷土資料館へ(住所は左記  
参照)。◆ 締切：一〇月二十五日必着。  
応募者多数の場合は抽選の上、結果  
を返信用はがきでお知らせします。

## 編集後記

かたりべ91号をお届けします。  
一〇月に入り、学習・スポーツの  
秋の到来です。資料館では、企画展  
や講座などのイベントが盛りだくさ  
んです。今回は企画展にあわせて、  
親子で(大人同士でも)楽しめるコー  
ナーを設けました。皆さんと一緒に  
野菜とタネのふしぎ体験をしてみま  
せんか。(よこ)

※写真の答え A 練馬大根(橋本登氏提供)

B 五寸人参(福岡栄之助氏提供)

かたりべ  
No.91

2008年9月30日

豊島区立郷土資料館

〒171-0021  
豊島区西池袋2-37-4

電話 03-3980-2351

URL: <http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>